



今回のテーマは

マンモグラフィ検査

です。

【日本の乳がんの現状】

乳がんは、日本の女性が最もかかりやすいがんで、年間8万人以上の方が乳がんと診断され、現在11人に1人が乳がんになるとされています。また、がん死亡率は女性において第5位になっており、年間1万人以上の方が命を落としています。

国立がん研究センターの「有効性評価に基づく乳がん検診ガイドライン 2013年度版」では、乳がんにかかった人の5年生存率は、検診で見つかった場合と検診以外で見つかった場合では、前者の方が高いと報告されています。検診を受けることで早めに乳がんを見つけることが非常に重要です。

乳がんの早期発見に役立つ検査の一つが**マンモグラフィ検査**です。

【マンモグラフィ検査とは】

乳房専用のレントゲン検査です。乳房を2枚の板で圧迫し、平たく伸ばして撮影します。一般的には片方の乳房に対し49歳以下が2方向（上下・斜め）、50歳以上は1方向（斜め）のみの撮影です。乳房の**しこり（腫瘍）**や**石灰化**（カルシウムの沈着）の有無、**乳腺**（母乳をつくるところ）の**ひずみ**などの異常を調べます。

検査を受ける際の注意事項として、豊胸術を受けたことがある、植え込み型ペースメーカーや植え込み型除細動器を装着している場合、検査を受けることができません。

【検査でわかる主な疾患】

◇**乳がん**…乳房にある乳腺に発生する悪性腫瘍です。右の写真は乳がんが白く映っています（**赤い矢印**）。主な症状はしこり、乳頭からの血性分泌などです。

◇**乳腺線維腺腫**…良性のしこりの1つです。しこり以外の症状はなく、治療の必要は特にありません。

◇**乳腺嚢胞**…乳腺に水が溜まった袋のことです。治療の必要は特にありません。

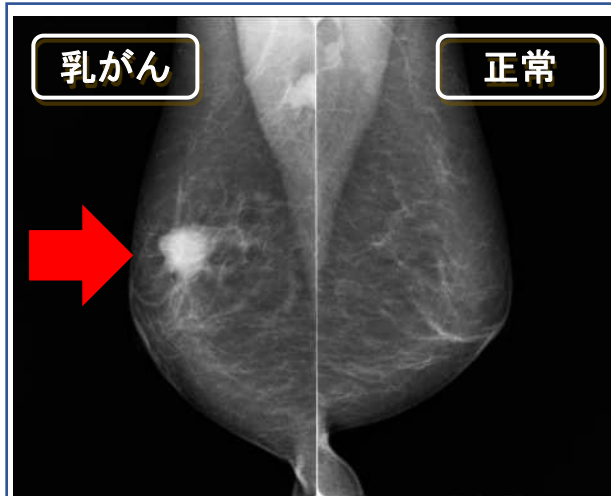
【乳がんの発症リスクについて】

乳がんの発生は、エストロゲン（女性ホルモン）が大きく影響しているといわれています。危険因子は、**40歳以上**、**初潮が早い**（11歳以下）、**閉経が遅い**（55歳以上）、**初産年齢が遅い**（30歳以上）、**乳がんの家族歴**、**良性の乳腺疾患の既往**、などです。また、生活習慣とも関連が強く、**閉経後の肥満**（BMI※が30以上）、**飲酒習慣**、**喫煙**と**受動喫煙**が発症リスクを高めるといわれています。一方、閉経後の女性の場合、**適度な運動**が発症リスクを低下させるといわれています。

※BMI（Body Mass Index）＝体重（kg）÷〔身長（m）×身長（m）〕



マンモグラフィの装置



乳がんのマンモグラフィの画像

マンモグラフィ検査のご案内

オプション検査：5,500円

横浜市乳がん検診（40歳以上）：1,370円

参考資料：「国立がん研究センター がん情報サービス」
「日本乳がん学会」HP 「日本医師会」HP
「患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2019年度版」

横浜市立みなと赤十字病院 健診センター